



一般社団法人  
**全国高等学校PTA連合会**

一般社団法人全国高等学校PTA連合会  
(連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757  
発行人 佐野元彦 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール [info@zenkoupren.org](mailto:info@zenkoupren.org)

会報

No.80

# 教育と考福

未来に引き継ぐ知と恵み

大会宣言  
採択!

**第64回全国高等学校PTA連合会大会福井大会**が「教育と考福―未来に引き継ぐ知と恵み―」をテーマに、8月22日(金)23日(土)の2日間開催された。独自の教育的風土をもち、小中学生の学力、体力がトップレベルにある福井県での開催に9536人が参加した。

開会式はサンドーム福井をメイン会場に、敦賀市文化センター・福井フェニックスプラザをサブ会場にメイン会場からサブ会場に映像配信される同時中継方式で行われた。初めに佐野元彦会長の式辞、北風俊哉大会実行委員長の挨拶に続き、下村博文文部科学大臣の挨拶があり、20分間にわたって教育再生実行会議の動向について報告された。さらに、福井県杉本達治副知事、越前市奈良俊幸市長からご祝辞をいただいた。

ついで表彰式があり、文部科学大臣から優良PTA31団体に表彰状が授与された。また、全国高P連会長表彰として個人72人、単位PTA81団体、役員等39人が表彰された。

式に続いて脳科学者の茂木健一郎氏による基調講演が行われた。

この後、7つの分科会場に分かれて、高P連研究発表、4つの分科会、2つの特別分科会で活発な研究協議が行われた。

2日目はメイン会場にて福井県恐竜博物館館長の東洋一氏による記念講演が行われ、続いて閉会式に移り大会宣言が満場の拍手をもって採択された。ついで、大会旗が大会実行委員長から会長に返還された。続いて時期開催県岩手県の高P連会長に手渡され、来年の盛会を祈念して大会全日程を終了した。

## 今号の主な内容

### 全国大会 福井大会

会長式辞・実行委員長挨拶  
文部科学大臣挨拶「教育改革進捗状況」  
基調講演・記念講演  
分科会報告



1 頁  
2・3 頁  
3 頁  
4 頁  
5～7 頁

研究発表  
大会宣言  
シリーズ視点 世界に羽ばたけ! 輝く高校生!  
第1回全国会長・事務局長 研修会報告

8 頁  
9 頁  
10・11 頁  
12 頁



## 会長式辞

一般社団法人全国高等学校PTA連合会 会長 佐野元彦



敦賀市民文化センター、福井フェニックスプラザ、そしてサンポート福井にお集まりの皆さん、お早うございます。

2日前の広島市の土石流災害では多くの尊い命が失われ、また、先月から続く台風などによる豪雨でも多くの被害が発生いたしました。皆様と共に、心からのお見舞いを申し上げたいと存じます。そのような中、全国各地からここ福井の地にお越しただきました皆様方に対し、心から御礼と歓迎を申し上げます。また、公務ご多忙の中、文部科学大臣・下村博文様、福井県副知事・杉本達治様をはじめ多くのご来賓の皆様方にご臨席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、年に1度、全国各地から1万人近いPTA会員が集うこの研究協議会は、開催地それぞれの風土に触れること

で、私達参加者に新たな発見と視野を与えてくれます。今回は、明治維新の青写真を描いた橋本左内、横井小楠ゆかりの地、福井が舞台であります。近代日本を生み出す頭脳の役割を担った福井県での大会は、きつと私達に知的興奮と明日への展望をもたらしてくれるものと信じております。

本大会のテーマは「教育と考福」、サブテーマは「未来に引き継ぐ 知と恵み」です。言うまでもなくPTAの役割は、子ども達一人一人の幸福を

現することを目標に、保護者と教職員が手を携えて、子ども達の健全育成に資する活動に取り組むことです。私達、全国高P連においても、50の都道府県市連合会を通して、諸活動に取り組んで参りました。近年では、自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動や薬物乱用防止運動、そしてスマートフォンのもたらす様々な問題にも本格的に取り組むみ始めました。また、東日本大震災で被災した高校生への支援活動も継続して行っております。

しかしながら、経済的格差の拡大、少子高齢化社会の進展、地域コミュニティの崩壊、急速な高度情報化の進展、社会のグローバル化など、社会経済上の諸問題が教育や文化、家庭生活に大きな影響を及ぼしています。このような若者を取り巻く環境の変化や深刻な状況に対して、根本的、抜本的な改革が求められています。そのためには、私達保護者・教職員自身が現状を正しく認識し、理解し、問題を発見し、解決策を探り、仲間と共に

に行動する力を一層高める必要があります。本大会で提供される様々な想いや情報に触れ、気付き、そして学び、未来に引き継ぐ知と恵みに昇華させて、全国各地に持ち帰り、明日からのPTA活動で実践をしていただくように願ってやみません。

終わりに、本大会の開催にあたりご尽力いただいた、福井大会実行委員会の皆様、文部科学省、福井県をはじめとする関係各位に、深甚なる感謝を申し上げ、式辞といたします。

## 実行委員長挨拶

第64回全国高等学校PTA連合会大会福井大会実行委員長 北風俊哉



全国高等学校PTA連合会の皆様、ようこそ福井の地へお越しくださいました。北は北海道から南は沖縄まで、多数の皆

様をお迎えできましたことを大変うれしく思うとともに、福井県高等学校PTA会員一同、心より歓迎申し上げます。

今回の福井大会では、メインテーマに「教育と考福」を、サブテーマに「未来に引き継ぐ 知と恵み」を掲げました。科学技術がこんなに進展した現代ではありますが、あの東

日本大震災から3年以上の年月が経っても、まだ完全に解決できていない問題も横たわっており、そのような中で、日々の生活に追われる毎日を通じて、いよ、子どもたちにとつて、今こそ「真の豊かさや幸福とはどのようなものか」をじっくり考えることが求められているのではな

いでしょうか。今、「考福」ということを正面から取り組むことで、初めてこの混沌の時代を生き抜くための指針や方向性を自分のものにする事ができるのだと考えます。その際、先人の知恵と先人が求めようとしたものを今一度たずね、更に時代に沿った在り方、生き方をも熟考していくという

「温故知新」の姿勢を持つことが必要であります。この大会では、7つの分科会を設けています。その中の2つの特別分科会「ものづくりの国、巧の技は次代へ」と「自然・命、守るべき宝は今も」は、福井県の特徴を凝縮した内容になっております。また基調講演では、茂木健一郎氏による「今求めら

れる考福脳・脳科学者からの提案」を、2日目の記念講演では、恐竜発掘件数日本一を誇る福井県の中核施設である県立恐竜博物館の東洋一特別館長による「福井の恐竜・アジア、そして世界へ」を講演していただきます。時間軸の中を「未来」へ「過去」へと往還するひとときを是非とも体感してい

ただきたいと思います。  
私たちには、子どもたちが幸せに生きて欲しいという共通した想いがあります。その子どもたちへの想いが、あらゆる境

界を越えて私たちを一つにしてくれるはずで。今、こうして子どもたちの縁で全国から会員が一堂に会し、一つの思いを共有してつながりあうこ

とが、全国大会の持つ大きな意義の一つと考えます。いつの時代でも、子の健やかな成長と幸福を願う親の思いは変わりません。この大会を通して、

家庭と学校と地域が三位一体となり連携を一層強め、教育に対して正面から向かい、共に進んでいくという契機になればと心から願っております。

結びに、本大会開催にあたりご支援いただきました文部科学省はじめ、福井県、福井市、敦賀市、鯖江市、越前市ならびに関係諸団体の皆様に心か

ら感謝の意を表しますとともに、この2日間の研究討議が実り多いものになることを祈念申し上げます。開会の挨拶に代えさせていただきます。

## 文部科学大臣 下村博文氏 祝辞（要旨紹介）

山口大会に続き今大会にも下村博文文部科学大臣がご臨席された。ご祝辞とあわせて、教育改革の進捗状況と課題について20分間にわたってご講話くださった。

福井県の家族の在り方や教育の伝統に言及された。また、就任以来世界20か国を訪問し50人の教育大臣と会談した経験を踏まえて、所感を述べられた。

大会の基調講演で約束したことについて、その主なものを報告して挨拶に代えたい。

1、教育委員会制度改革  
先の通常国会で抜本改革をした。教育委員会制度そのものは執行機関としては残すが、地域の方々の声を着実に反映できるように総合教育会議を設定し、首長が主宰して教育委員会の方々と協議をし、その自治体における新たな教育大綱を定めていく。来年の4月から制度設計がスタートする。

2、大学入学試験の改革  
教科中心の学力だけではなく、21世紀の社会に通用する人材選考とはいえない

3、高校授業料無償化制度の見直し  
所得制限を設けることにより、特に私立高校の低所得者世帯に対する就学支援金の加算を拡充し、さらに非課税世帯に対する返済不要の高校生等奨学金給付金を創設した。来年さらにこれを拡充する。また、子供の貧困対策の推進に対する法律も成立させた。近々に、文部科学省・厚生労働省・内閣府が一緒になって、その

冒頭、下村大臣は、広島県での集中豪雨による犠牲や被害に対して、お悔やみとお見舞いの言葉を述べられた。ついで、福井県が生んだ江戸時代の歌人、橘曙覧（たちばなのあけみ）の歌を紹介しつつ、小中学生の学力がトップレベルにある

世界がグローバルバル社会、知識基盤社会へと進む中で、これから教育によって一人ひとりにチャンスや可能性を提供し、新しい時代を切り拓いていくと先進国が取り組み始めている。またこの福井大会のコンセプトである「幸福の追求」の視点も含め、我が国は遅れている部分があるが、日本人がプラス思考で結束していける国民性を活かせば必ず取り戻すことができる。

次に本題として教育改革の経過報告をされた。——教育再生実行会議は先日までに第5次提言までまとめて提案してきた。昨年の第63回の全国

4、グローバル人材の育成  
大学生の留学支援プログラム「トビタテ！留学JAPAN」にこの半年で企業から90億円の寄付をいただいた。政府も今年は88億円の予算をつけた。来年は高校生支援も拡大し、高校生・大学生の留学のための給付奨学金制度を拡充する。国際バカロレアは2018年までに対象を一般高校200校にする。連動してスーパージョーバルハイスクール（SGH）の事業を今年からスタートさせた。SGHが56校、SGHアソシエイトが54校、あわせて110校を指定し、質の高いカリキュラムの開発や実践に対してバックアップする。学校の先生だけでなく、PTAの皆さん、地域の皆さん

最後に、当日の朝七時に早くも各地でスタッフが出迎えて案内していたこと、しかも高校の先生たちもスタッフに参加していることに驚き感銘を受けたと述べ、福井大会の成功を祈念し期待する言葉で締めくくられた。

（\*）「たのしみはまれに魚煮て見ら（ころ）皆がうましうましといひて食ふ時」（橘曙覧『独楽吟』より）。



次（\*）「たのしみはまれに魚煮て見ら（ころ）皆がうましうましといひて食ふ時」（橘曙覧『独楽吟』より）。

（\*）「たのしみはまれに魚煮て見ら（ころ）皆がうましうましといひて食ふ時」（橘曙覧『独楽吟』より）。

（\*）「たのしみはまれに魚煮て見ら（ころ）皆がうましうましといひて食ふ時」（橘曙覧『独楽吟』より）。

（\*）「たのしみはまれに魚煮て見ら（ころ）皆がうましうましといひて食ふ時」（橘曙覧『独楽吟』より）。



## 基調講演

## 今求められる考福脳

脳科学者からの提案

脳科学者 茂木健一郎氏

開会式の後に、「今求められる考福脳」脳科学者からの提案」と題して、脳科学者 茂木健一郎氏の基調講演をいただきました。

茂木氏はまず自分の体型を例に挙げられ、それを嫌だと思ったら幸福になれない、幸福というのは自分の個性を受け入れるところに鍵がある、個性を受け入れてそれを伸ばさなければいけないと話されました。欠点の直ぐ傍らに長所があると俳優のトム・クルーズなどの失読症の例を挙げられ、失読症は文章を読めないから学校の成績は良くないが、人の話を聞くという能力、自分ができないから他人を適材適所で任せる能力、そのため人間関係を円滑に保つ能力が発達し、成功を収めた方が多数おられる。欠点があってもいい、自分の長所を伸ばせばいい、全部一人でやる必要はない、チームを組んでやればいいということを伝えることが大切だと強調されました。

パミンが出て成長するの、苦手なことにも挑戦することが大切だと話されました。また、脳は無限に学ぶことのできるオープンエンドであるが、今は有名大学に入ることが学びの条件になっていない。殆どの論文は英語であるがインターネット上で無料で読むことができるし、ハーバード・マサチューセッツ工科大学のオンラインコースのエディックスも無料で利用でき、その修了証は高い評価を受けている。今は、日本の教育もどんどん変わっていかねければいけないビッグバンの時代だ。そんな中で我々に必要な能力とは、批判的思考力、システムの思考力そして英語力であるが、苦手な人はそれが得意な友達を持てばよい。個性は豊かなもので、欠点があってもいい、自分の欠点をユーモアをもって語れる余裕、他人への優しさが大切だと話されました。



最後に幸福について、「これがあるから」「これになれたから」幸せだ、「ないから」「なれないから」不幸だといったことから「不幸だとい

## 記念講演

## 福井の恐竜

アジア、そして世界へ

福井県立恐竜博物館特別館長 東洋一氏

大会2日目に、福井県立恐竜博物館特別館長・東洋一氏による「福井の恐竜」アジア、そして世界へ」と題する記念講演がありました。

東氏はまず、恐竜は、今から2億4000万年前くらい前に地球上に姿を現し、6600万年前に絶滅したと考えられてきたが、恐竜が鳥類になって現在も生きていることが分かっていた。恐竜は、大きく竜盤類と鳥盤類に分かれ、竜盤類は肉食の獣脚類と草食の竜脚類に分かれる。鳥盤類はすべて草食であるとスライドを使いながら説明された。

次いで、日本で最初恐竜の骨が見つかったのが岩手県であり、現在まで17道県から恐竜の化石が産出しているが、いずれも中生代の地層からである。北陸地方には「手取層群」という地層が広がっており、ここ富山・石川・福井・岐阜4県から日本の恐竜の大半が発見されている。福井県で1982年に恐竜時代のワニの化石が発見されたのがきっかけで、翌年から予備調査が始ま



り、現在第4次調査中である。それらによって、肉食恐竜の「フクイラプトル」や草食恐竜の「フクイサウルス」「フクイティタン」などが発掘された。また、恐竜の足跡の方向から河川の流れる方向が推察され、発見された動物や植物の化石から当時の自然環境が復元できる。哺乳類の化石も見つかり、我々の祖先の哺乳類も生活していたことが分かったと話されました。

最後に、今年7月19日にオープンした発掘体験のできる野外博物館の宣伝を少しした後、恐竜は子どもがある程度大きくなるまで子育てをしたことが最近の研究で分かっていたと述べられて、講演を締めくくられました。

たくさんのスライドを使いながらの講演は、教えられることが多くて、興味深いものでした。

## 特別第1分科会

ものづくりの国、  
巧の技は次代へ

於：鯖江市文化センター

福井県には、鯖江の眼鏡、越前漆器、越前打刃物、越前和紙、若狭塗やプロ野球選手の使用する木製バット製造など、日本経済の成長を担った「ものづくり」の技術が今も培われています。日々進化する匠の技を次代へ継承するための独自の方法を学び、高等学校の教育との共通性を探るために、まず3名のパネリストに講演をいただきました。

まず、(株)ボストンクラブ代表取締役・小松原一夫氏は、安価な中国製品の輸入が急増するなかで、100年後も「めがねのまち鯖江」であるために、「サバエ・メガネ」地域ブランド化やチタン金属微細加工を応用した異業種などの連携を進めるとともに、後継者育成にも力を入れ、地元高校生のインターンシップ受け入れなどを進めていると話されました。

次に、福井県和紙工業協同組合理事長・石川浩氏は、1500年の伝統を誇る越前和紙の技を伝えるために、ブランド向上事業や国内外での展示会・講演会に取り組みとともに、越前和紙の魅力を知ってもらおうと小中学生の卒業証書紙漉き体験や高校「美術」の授業での「雲肌麻紙」を使った日本画の指導等に取り組んでいると話されました。

次いで、(株)ヤマト工芸代表取締役・高野利明氏は、越前漆器製造の我が社に若者が多数入社するのは、自分のやりたいことにチャレンジできる社内環境づくりに力を入れ、若者が若者のニーズの製品を製造するものづくりを進めているからだと話され、世の中の動きや日本の暮らしを見据えたものづくりを目指したいと語られました。



続いて、仁愛大学人間学部教授・金田明彦氏をコーディネーターに、会場からの質問も交えながら、企業が求める人材やものづくりの魅力の発進方法などについて、活発な議論がなされ、会場は大いに盛り上がりました。

## 特別第2分科会

自然・命、  
守るべき宝は今も

於：敦賀市民文化センター

社会のデジタル化が進み、人間関係が希薄になりつつある現在こそ、豊かな心を育むための教育が必要です。福井県には、ラムサール条約湿地に登録された三方五湖や中池見湿地があり、杉原千畝により「命のビザ」を発給されたユダヤ人が上陸した敦賀港があります。自然の保全活動や人道の調査・研究活動を通して、自然・命という守るべき宝について学び、これからの高等学校教育とPTA活動のあり方について考えました。

まず、三方五湖の保全活動を行っているハスプロジェクト推進協議会会長・大下恭弘氏、中池見

湿地を管理している特定非営利活動法人中池見ねっと理事・増田茂氏、人道の港調査研究所代表古江孝治氏による講演がありました。その後、福井県立大学地域経済研究所准教授・井上武史氏をコーディネーターに、講演いただいた各氏をパネリストとして、パネルディスカッションが行われました。

参加者からは、手つかずのまま守られる保全活動と、人の手が加わることで守られる保全活動があり、貴重な自然を守る方法は多種多様であること、守られるべき環境の状況を判断した適材適所の保全の必要を学んだ等の発言がありました。また、多くのユダヤ人の命を救った杉原千畝の存在を初めて知った参加者も多く、同じ日本人として誇らしく感じるとの声も聞かれました。

次の時代に継承すべき宝「自然・命」の大切さを学ぶ機会となり、高校生をもつ親にとつて非常に参考となる分科会でした。



## 第1分科会

## 学校教育とPTA

～真の信頼構築への啓発～

於：ハーモニーホールふくい

開発や農産物の販売などの取り組みを通して、勤労を尊び、主体的に逞しく生きる人間を育成し、地域に還元できる仕組みを作り上げたいと発表されました。

三重県立松阪高等学校PTA会長・長谷川浩也氏は、「子どもの進路希望を叶えるために行うPTA行事」と題して、保護者は子どもの進路について学び、子どものサポートができる力を身に着けることが大切と考え、学校と協力して、それぞれの学年の位置づけを意識したPTA研修会を企画・運営し、多くの保護者の参加を得ていると話されました。

子どもたちが様々な人や社会との関わりを広げていくなかで、より良いコミュニケーション能力を養うために必要なものとは何か。生徒間や生徒と教師、そして広く他者との間に、真の信頼関係を育むコミュニケーション等について考え、そうした人間力を高める教育にPTAができることについて研究協議を行いました。

山形県立置賜農業高等学校PTA副会長・佐藤将巳氏は、「置農生とPTA連携の地域活性化を目指して」と題して、保護者関連の企業に積極的に協力を依頼して、生徒との連携による特産品の

いると発表されました。指宿市立指宿商業高等学校PTA会長・長井雅美氏は、「株式会社指商を支える保護者たち」PTAは子どもたちの応援団！」と題して、指商デパートという生徒の実習販売ではPTAは餅つきや来場者の駐車場案内、PRチラシの配布等で支援し、OB・OGの「そらまめん隊」も協力している。今後もPTAは「一番の理解者」「応援団」として活動していきたいと話されました。



## 第2分科会

## 進路指導とPTA

～立志と目標追求への啓発～

於：越前市文化センター

地区別の懇談会を、学年別にして学校開催とした結果、参加者が大幅に増えたこと、もっと早期に進路について詳しく話を聞きたいとの保護者の要望に応える形で進路特別講演会が実現したことなどを話されました。

新潟市立明鏡高等学校PTA会長・小林泰氏は、「進路指導とPTA活動」と題して、定時制高校である本校には様々な事情を抱えた生徒がいるために、PTA活動は子ども達の進路支援をし、保護者同士の連携を図ることに力を入れ、保護者同士が気軽に話せる場としての茶話会「トトロの会」の開催、保護者と教員の合同研修として若者支援関係機関の見学会等について発表されました。

子どもたちが、将来の夢や目標を見定めにくい現代、いわゆるニートやフリーターの増加が深刻化するなか、学校や家庭で子どもたちの職業意識に対して講じることのできる教育とは何か。子どもたちが、人生を大切に考え、自分の将来に真面目に向き合い、志を立てて前へ進むために、学校とPTAが連携してできることについて研究協議を行いました。

埼玉県立越谷北高等学校PTA後援会長・並木利美子氏は、「進路教育とPTAのあり方」進路について共に学び意識高揚を目指すPTA活動」と題して、それまで外部会場で行われていた

コミュニケーション能力や粘り強さなどの学業や資格以外の資質の大切さを痛感したと話されました。沖縄県立那覇国際高等学校PTA進路対策部部長・島袋十史樹氏は、「やりたいことは何だろうか？」親子で見つける幸せな進路」と題して、漠然と大学進学を考える生徒が多い現状から、親子で考えるキャリア教育「やりたいことを見つけてまシート」ワークショップについて話され、PTAは、子どもが自分の力で考え行先を決めてルールを作っていくための環境を整備する存在でありたいと訴えられました。



## 第3分科会

## 生徒指導とPTA

～連携・協働への啓発～

於：福井フェニックスプラザ

社会規範を学び、職業意識を醸成し、郷土愛を育む意味でも重要な地域社会と教育との関わりにおいて、その橋渡し役としてPTAができることとは何か。学校、PTA、地域社会が連携し協働のもとに、子どもたちの望ましい発達を促し、健全で実りある高校生活を支援できるよう、PTAの果たすべき役割について、研究協議を行いました。

で、そのために市や警察署、交通安全協会を巻き込んで、通学路の拡幅、道路の舗装、夜間照明灯の設置、登下校の交通安全指導等に取り組んだ。また、生徒の健康・安全面での支援としては、加湿器の購入等があげられると話されました。

東京都立片倉高等学校PTA会長・松本成仁氏は、「心の中の花」と題して、多くの生徒がメンタル面の理由で保健室やスクールカウンセラーを利用している実態を知り、彼らの心を少しでも和ませることができたらと通学路に面した校庭に、園芸部の顧問・生徒の協力も得ながら花壇整備に取り組んだ活動を発表され、生徒の心の中に一輪の花を咲かせることができたのではと結ばれました。



大阪府立四條畷高等学校PTA顧問・早矢仕隆男氏は、「PTAが出来る事」を守る伝統から創る伝統へ」と題して、古き良き伝統を継承しながら、効果的で無駄のない改革を進めて新たなノウハウを確立し、楽しく為になるPTA活動を目指している

と話され、校内見学会や七夕（笹を準備し、生徒に願い事を書いてもらう）、体育祭での熱中症対策（ミスト扇風機のレンタル）などの新たな取り組みについて発表されました。

山口県立防府商工高等学校PTA会長・財満謙太郎氏は、「特色ある学校づくりを通しての生徒指導」と題して、本校は地域の様々な機関と関わり合いを持ちながら、実践的な取り組みを進めている。天神まちなかどフェスタや笑いの街づくり、幸せますの街ほうふ等の取り組みに保護者も積極的に協力し、大人としての生き方を示し続けることが子ども的人格形成のための最高の援助ではないかと話されました。

最後に、福井工業大学非常勤講師・荒川義弘氏から助言をいただきました。

岩手県立金ヶ崎高等学校PTA会長・高橋清治氏は、「家庭教育の情報」はPTA総会と学年PTAから」と題して、子どもの教育にもっと関心を寄せるために、情報源である学校の行事への参加率を高める取り組みを重視すべきだと考え、PTA総会では参加案内等を

## 第4分科会

## 家庭教育とPTA

～家庭教育力への啓発～

於：敦賀きらめきみなと館

家庭教育力の低下が指摘されて久しいなか、学校教育中心の考え方を改め、家庭や地域社会における教育機能を十分に発揮するために必要な方策とは何か。本分科会では、家庭教育力の回復・向上を目指し、PTAが旗頭となる積極的な取り組みについて、研究協議を行いました。

山梨県北杜市立甲陵高等学校PTA会長・矢野良一氏は、「PTA―わが子との接点」と題して、「紫蝶祭」と呼ばれる学園祭での「立志のそば」の出店や全校マラソン大会での「豚汁作り」、能穴焼窯元での「陶芸教室」や「ふるさとめぐり」という研修旅行等のPTA活動への参加を通して、保護者同士の輪が広がり、学校生活の情報や先生方への信頼が醸成され、PTAはわが子への見えない接点となつていくと発表されました。



長野県豊科高等学校PTA会長・新井光寿氏は、三者（学校・生徒・PTA）の絆を深めるPTA活動を目指して」と題して、同窓会とPTA共催で「しなの木セミナー」を実施し、生徒の進路実現に向けて支援を行っているが、学校任せではなく保護者も様々な学校教育の場に参加し、学校・生徒・PTA三者が共に将来を見据えた教育活動に参加することが重要であると話されました。

島根県立松江北高等学校PTA会長・石倉弘文氏は、「歴史と伝統がはぐくむキャリア教育」と題して、全国高P連大会の分科会発表で聞いたキャリア教育を本校でも行おうと始めた「職業人講話」についての取り組みを説明され、この取り組みは生徒と保護者が進路選択について話し合う一つの機会になつていくばかりでなく、地元島根にある素晴らしい企業を知ることにもなつていくと発表されました。

最後に、福井県立大学看護福祉学部准教授・吉弘淳一氏から助言をいただきました。

# 全国高P連研究発表

## 進路選択と親子のコミュニケーション（進路対策委員会）

### 第I部 講演

高校生と保護者の進路に関する意識調査  
— 社会環境の変化と進路選択 —

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

進学総研所長 小林 浩氏



小林氏は、保護者と子どものコミュニケーションのあり方が子どもの「自立」支援に大きく影響するという観点から、その実態と課題を明らかにしてコミュニケーションの改善に役立てたいと述べられ、①親子コミュニケーションの実態 ②進路にまつわる期待と不安 ③保護者の動きと高校への要望 ④グローバル化の影響という4つのテーマで展開演説された。保護者にとって反省や思考のきっかけとなる話題が次々と提示された。（これらのデータと所見は本会ホームページの「調査

研究」ページ掲載の資料で閲覧可能）さらに、番外編として「環境変化から教育と進学を考える」と題して、「少し先の未来2020年」のマクロ環境の予想をもとに次の点を強調された。

- ・世界規模で異業種格闘技戦が繰り広げられる。
- ・会社の寿命は現在はいずれ18年。今後さらに短くなるので、一企業で勤め上げる人は少数派になる。
- ・どんな時代でも働き続ける力、学び続けていく力、変化に対応でき、主体的に考え挑戦し続ける力が必要と述べ、最後に「保護者のかくありたいスタンス」として、「余計な詮索や干渉を避けて、相手の話をきちんと聞いてあげる姿勢を見せること。相手を尊重しつつアドバイスを送ることで、子ども

### 第II部 座談会

#### 進路選択と親子のコミュニケーション

第2部は、講演会に続いて小林浩氏にコーディネータを務めていただき、5人のパネリストによる座談会が行われた。5人の内訳は高校生2人、保護者2人、うち1人は海外事業所を持つ企業経営者。そして高校の進路指導担当教師。テーマとしては、親子のコミュニケーションの在り方と、グローバル化への対応を中心に展開された。パネリストは実際の父・母・子ども2人と先生という構成になっており、準備段階から次第に擬似的な家族のように互いの関係性が醸成されたよう

で、会場全体が和やかな気分になった。高生1人は既に進路の方向を決めていたが、コーディネータが鋭く切り込むと、志望決定に至る思

も指摘されていたデータに重なった。一方、高校生は英語力の不安から、自身が海外で活躍する姿は描きにくいという声の一方で、職業はともかく広い世界で何かしたいという夢も語られた。

以上、2部構成のためそれぞれの部分で時間不足の感否めなかったが、講演と座談会の内容が上手く繋がっており、全体として、参加者の思考を刺激する展開となり、満場の拍手で終了した。



### 佐野元彦会長のつぶやき



●日本創生会議による衝撃的な「消滅する市町村のレポート」。根拠となる数値を示され、改めて地方の危機を実感するが、「こうならないためには、それぞれの地域でどうするか」を問われているのだと思う。グローバルな視野をもって地域課題解決に果敢に挑む若者たちを育てていくことこそが私たち世代の責務。

●千葉県連結成50周年の記念講演は、女子マラソンの名伯楽小出義雄さんの「君ならできる」人生のアスリートを育てるために。かけっこが好きで、勝つことが好きで、若者が好きで、お酒が好きな魅力的で若々しい75歳。人生を駆け抜けるには、「万事塞翁が馬」の前向き思考が大事なんだな。

●全国高P連福井大会の大成功に感謝！ 主管の福井県連の方々の献身的な働き、福井県民のホスピタリティ、高校生たちの澁刺としたパフォーマンズ、そして全国各地から参加された皆さんの自発的な行動。これらが相まって創り上げられた大会。福井、最高！！

## 大会宣言

「教育と考福」～未来に引き継ぐ 知と恵み～をテーマに幸福度日本一を目指すここ福井の地に、全国各地より多くの会員が集い、第64回全国高等学校PTA連合会大会福井大会が開催され、大きな成果を収めた。

あの東日本大震災から3年以上の月日が過ぎたが、被災地の方々のご苦労が続いていることは言うまでもなく、私たち一人ひとりにとっても原発事故の処理など全国民が共有する課題が残されている。物と情報の洪水の中にある今日の私たちにとって、見失いがちになる真の豊かさとはどんなものなのかを考えること、すなわち「考福」ということが生きる指針や方向性につながる希望としてあるはずだ。GNPやGDPでなくGNH(国民総幸福量)を基に国の方向性を見定めようとするブータン王国のように、あるいはかつての日本に培われた清貧の思想を体现した福井県の先人、橘曙覧の『独楽吟』の一首「たのしみは 朝おきいでて 昨日まで 無かりし花の 咲ける見る時」をビル・クリントン元大統領が引用したように、現代人の求める幸福のあり方について今一度考えることで、物質主義の中に取り籠められない人間性の確立を目指したい。先人の知恵に倣いつつ、時代に沿った伝統的ものづくりのあり方や、郷土の自然保護活動などをひとつのヒントとし、子どもたちが自ら目標を持ち創造力豊かに成長するために、確たる指針や方向性を与えていきたい。

いつの時代も、子どもたちの健やかな成長と幸福を願う保護者の思いは同じである。本大会では、「家庭」「学校」「地域」が、それぞれの役割を見つめ直し、共に学び連携してPTA活動の更なる深化を目指すことができた。

全ては子どもたちの幸福のためにという思いを胸に以下の宣言を行う。

### 記

- 一 いじめ問題や体罰問題などの課題に真摯に向き合い、自他の命の尊さを自覚し、他者との間に真の信頼関係を築けるようなコミュニケーション能力の育成に努める。
- 一 子どもたちが人生を大切に考え、自分の将来に真面目に向き合い、志を立て、職業意識を形成し幸福な未来を実現するために、「家庭」「学校」「地域」が、共に学び連携して継続的な支援に努める。
- 一 PTAと地域社会が連携し、グローバル化する社会の中での様々な他者との関わりの中で、それぞれの郷土の風土や伝統・文化の大切さと社会規範に自覚的な良識ある市民意識の形成に努める。
- 一 子どもたちの幸福な未来の実現のため、保護者が「学校」「地域」との連携を密にして、近年低下したと言われる家庭教育力の再生を果たし、継続的に子どもたちを支援していくことに努める。

第64回全国高等学校PTA連合会大会福井大会において宣言する。

平成26年8月23日

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

生徒会は学校設立の年、昭和29年5月13日に結成。平成8年度、文部省から松江市が「エイズ教育（性教育）推進地域事業」の指定を受け、同校が研究センターとなり、この年から近隣の小中学校へ出向きエイズ啓発活動（出張講座）



- 松江市立女子高等学校は、昭和29年4月に松江市民の熱烈なる要望により設立された、中四国地方唯一の公立女子高校である。普通科3クラス、国際文化観光科1クラス（いずれも定員30名）の2学科からなり、昨年創立60周年を迎えた。
- 教育方針として、次のような生徒の育成を掲げている。
- (1) 自分の未来を確実に描き、その実現に向けて努力できる生徒
  - (2) 男女共同参画社会をリードするための基礎力を備えた生徒
  - (3) ホスピタリティ精神に満ちた生徒
  - (4) 節度ある生活習慣とコミュニケーション力を備えた生徒
  - (5) 故郷を愛し自国の文化理解の上でグローバルな視点に立てる生徒

「多くの人にエイズの現状と正しい知識を知ってもらう活動」に対して授与された。

松江市立女子高等学校生徒会執行部

津田梅子賞受賞！

平成26年度

シリーズ★点

世界に羽ばたけ！  
輝く高校生！

輝く高校生。スポーツ、芸術、学業さまざまな分野で世界に羽ばたく高校生がいます。その活躍と保護者の思いを紹介するコーナーです。今回は、個人ではなく、グループで世界の課題に挑戦し、その解決に地道な努力を続ける活動にスポットを当てます。

を始める。その後、毎年20回程度行い「多くの人にエイズの現状と正しい知識を知ってもらう」活動が続いている。平成11年8月HIV感染者が話題となったいたルーマニア訪問。平成22年「Act Against AIDS Live」開催。

これらの継続的な活動が認められ、平成15年国際ソロプチミスト「ヴァイオレット・リチャードソン賞」、「国際ソロプチミスト松江クラブ賞」受賞。平成21年「島根県青少年育成県民会議」、「日本善行会」より表彰。平成21年度内閣府「社会貢献青少年及び青少年健全育成功労者表彰」受賞。

また、平成22年度より生徒会リーダー研修会にて国際協力事業団（JICA）、赤十字奉仕団より病気の置かれていた状況を学び、高校生としてできることを模索し、提案している。

現生徒会は会長野津奈穂（普通科2年）、副会長小川有彩（国際文化観光科2年）、引野恵里花（普通科2年）以下、専門委員長、運営委員など19名で活動している。

津田梅子賞とは

2010年、津田塾大学が創立110周年を記念し、創立者津田梅子のバイオニア精神にちなんで、女性の未来を拓く可能性への挑戦を顕彰することを目的として創設した。対象は①女性の可能性を広げる取り組みを行う個人または団体・組織②さまざまな分野で先駆的な活動を展開した女性で現代社会に顕著な影響を与えた方としている。今年度は、前文部大臣赤松良子さん、社会人類学者中根千枝さんが同時受賞している。



一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会 後援

AIU 高校生国際交流プログラム

（参加費無料）

<http://www.highschooldiplomats.org/>



「育てたいのは、子どもたちの未来。」

私たちは、AIU 高校生国際交流プログラムを協賛しています。

AIU 損害保険株式会社  
tel: 03-3216-6611 [www.aiu.co.jp](http://www.aiu.co.jp)



MS&AD 三井住友海上

さあ来い！リスク。

リスクとトータルに戦う  
総合保険ブランド[GK]

GK

三井住友海上火災保険株式会社  
〒104-8252  
東京都中央区新川 2-27-2  
[www.ms-ins.co.jp](http://www.ms-ins.co.jp)



地球の未来にできること。  
マングローブ「海の森」づくりは、  
その答えのひとつです。



東京海上日動火災保険株式会社  
東京都千代田区丸の内1-2-1  
〒100-8050  
<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>



Sompo Japan  
Nipponkoa

損保ジャパン日本興亜

2014年9月誕生！

損害保険ジャパン日本興亜株式会社  
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
TEL. 03-3349-3111  
〈公式ウェブサイト〉<http://www.sjnk.co.jp/>

## 津田梅子賞受賞について

校長 大西 七恵

本校では、平成21年度より、岡山県立真庭高等学校落合校地で行われている「三者協議会（学校会議）」を参考に、生徒・教員・保護者が一同に会し、より良い学校の在り方、そして高校生としてのより良い生き方、在り方とともに語り合う、「三者の語らい」づくりに取り組んできました。出席する生徒は生徒会執行部です。保護者の方には広く参加を呼びかけ、希望する方々に出席していただいています。

保護者の方々から様々なご意見をいただくなか、やはり、生徒会の「エイズ啓発活動」についてのものもありました。活動継続について激励していただくほかにも、もっとエイズについて深く学ぶべきかどうかというご意見をいただいたこともあります。それを受けて、平成23年度に島根大学医学部の先生にお願いして、エイズについての講義をしていただきより専門的な内容を学ぶという機会を得ました。この経験をもとに、エイズ啓発のための出張講座で用いる「プレゼンテーション」の内容を大幅に改定することができました。また、保護者の方からのアドバイスを受け、「プレゼンテーション」の内容を、小学生向け、中学生・高校生向け、一般の方向けと工夫したものにしています。

今後「三者の語らい」事業を継続し、保護者の方々からいただくご意見を参考に、よりわかりやすいエイズ出張講座となるよう、生徒会執行部で工夫していきたいと考えています。また、「三者の語らい」を地域の方々も参加していただく「四者の語らい」に発展させ、地域の方々のご意見も取り入れていきたいと考えています。

生徒会では児童労働、貧困、平和問題などの海外の問題を国際協力機構や日本赤十字社等の団体から学び、様々な課題や問題の解決について高校生としてできることを考え、出張講座にも取り入れています。また、多くの地域で問題となっている「男女平等」の問題にも目を向けています。

これからも、生徒会は津田梅子の生き方に学びながら、活動を更に発展させていくよう、努力していきます。

## PTAから生徒に期待すること

PTA会長 小澤 崇良

「津田梅子賞」を松江市立立女子高等学校が受賞するという快挙は本校の新たな輝かしい歴史を刻むこととなり、在校生をはじめ関係者にとつて大きな喜びとなっております。

先生方の支援のもと、「エイズに関する啓発活動」をはじめとする様々な取り組みを継続してきたこと、また今後の継続を含めて、賞の選考基準にある「女性の可能性を広げる取り組み」、「地域社会に顕著な影響を与えた」団体として選考対象となったと考えます。中国地方また山陰の松江の地であつても、選考委員各位から適正な評価をいただくことができましたことを光栄に思います。

世界の中で日本は、まだまだ女性の社会的地位の向上が遅れています。この意義ある受賞から、在校生はもとより卒業生並びに今後入学する後輩生の皆様には、母校を誇り、一人一人が自信を持ち、社会へ果立ったのちも志を持って、継続して学び、人格を高めて行く努力をしてほしいと思います。そして島根に、松江に住みながら、輝きを持ち認められる女性になっていただくことができることを期待いたします。



右から  
松江市立立女子高等学校 大西七恵校長  
松江市立立女子高等学校 生徒会長 安達優華さん（受賞時）  
津田塾大学 國枝マリ学長

## 高校生新聞®



## 高校生スポーツ®



## 高校生の生きる力と知恵を育む新聞です

勉強、部活、行事と忙しい学校生活。進路や友人関係など悩みもあることでしょう。高校生新聞・高校生スポーツはそんな高校生を応援する新聞です。毎号読めば、やる気アップ、毎日が充実すること間違いなし！高校生はもちろん、先生方、保護者、中学生も必読です。

▼ ホームページでも高校生のニュースを発信！

高校生新聞

検索

www.koukouseishinbun.jp/



SP 読者スクールパートナーズ  
高校生新聞社

編集部  
TEL.042-725-1155  
FAX.042-724-2710  
henshu@sclpa.jp

本社：〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10  
西日本支社：〒552-0013 大阪府大阪市港区福崎3-1-148

●1993年10月創刊 ●全国3,896校の生徒が愛読(2014年4月号)  
●タブロイド判／オールカラー／平均24ページ ●毎月10日発行

平成26年度第1回（9月21日、京都ホテルルビノ堀川）

## 全国会長・事務局長研修会

### 講演

#### 「青少年による薬物乱用の現状と 家庭・地域・学校の防止対策」

居場所を作ることが大切。多忙を極めている先生たちが子どもたちと向き合う時間を確保できるように支援すること。

①青少年による薬物乱用の現状：中学高校生の覚醒剤での検挙事例やシンナー等有機溶剤による検挙・補導は減少しているが、近年は「合法ハーブ」と称して販売される薬物など乱用される薬物が多様化しており、若者への広がり懸念されている。

②薬物乱用防止教育の考え方：薬物乱用防止対策が一定の成果を上げてきているのは事実だが、危険ドラッグのように常に規制の網を逃れる薬物が開発されるし、ネット販売などで安直に購入できる状況もあって、社会全体あるいは地域の抑止力を高める必要がある。特に学校に通うことが薬物乱用の抑止力になるので、学校と保護者が協力しあって、子どもたちの

③保護者へのお願い：薬物乱用の基本的知識を持つこと。例えば危険ドラッグは何か入っているか分からないので、覚醒剤よりも危険な場合があること、信用できない場所ですべて売っている物は危険であることを子どもにしっかりと教えてほしい。

以上、体系立った内容で薬物乱用防止について基本的な理解が深まる講演だった。

講師  
文部科学省入部・青少年局  
学校健康教育課  
健康教育調査官  
北垣 邦彦氏

### 委員会報告

#### 健全育成委員会

①平成26年度全国高校生意識調査の実施状況について。合計45校、2学年4クラス分を9月24日から10月19日の期間で実施。分析は、京都大学大

学医学研究科准教授木原先生に依頼し、来年1月24日に分析の報告会を行った上公開予定。

②薬物乱用防止パンフレットの編集委員会では、新たに「危険ドラッグ」の用語を取り込んで内容改正して原稿確定へ進める。

③安心協のILASTテストの実施については各地区二つの県連等の研修会の際に実施してもらいたい。期間は10月中旬～11月末を目途に実施できるところを事務局に出してもらいたい。

習到達度測定に関する最新情報を提供していただいた。

②全国大会研究発表の事後アンケートは29名から回収した。評価は、講演は平均で5段階の4と好評だったが、パワーポイントなどの工夫がほしいとの意見もあった。座談会も平均評価4で好評であった。質疑応答の時間が少し足りなかったとの意見あり。これらを2年後の千葉大会に生かしたい。

③各省庁に対する依頼文書ということで、緊急雇用の関係。新規の卒業予定者に対する文科省、厚生労働省に対する文書を出しているが、最近の経済情勢等を文書に加えながら、事業継続をお願いしたいというところである。経産省を含めてこれまで郵送で行っていたものを持参してお願いしていくということとした。

調査広報委員会

①会報79号を9月15日に発行した。「世界に羽ばたけ」のページで、取材対象について県連から推薦をいただきたいと思っている。

②全国大会のアンケートを健全育成委員会とコラボしてアンケートを取らせてもらった。その結果438通約15%の回収率であった。9月末日に集計ができホームページ、80号等に記載できると思っている。

③来年度に向けて、発行の時期等の課題があり、今後、理事会、総務委員会検討していく。

研修委員会

①福井大会の反省について、研修委員各自の大会レポートを全60ページに集約し、各委員から発表した。

内容は、全体会・分科会とも、ほとんどが大変よいという〇がついていて、中には◎で表現されている方もいた。事前の準備がよく、素晴らしい大会になったということである。地方大会の手本となるものであったと評価している。このレポートを次回の岩手大会へ手渡し、福井大会以上になるようにお願いするものである。

第65回 全国大会

岩手大会

ホームページオープン！  
全国高P連HPからアクセスして下さい。



賠償責任補償制度運営委員会

7月29日と9月8日に委員会を開催した。

①高校生の自転車事故の防止の啓発活動と賠償責任補償制度の普及を進めている。新媒体ARの作成を承認いただいたが、内容をより良いものにするよう委員会で検討を重ねていく。

②ここ数年の高額賠償事故件数の増加に伴い、もらった保険料に対して支払う保険料が多いという状況にある。収入より支出が多いということである。この対策ということで、委員会内で慎重に制度の見直しを進めていきたい。